



「ニッポンの家」は自然と融和する

右ページ/リビングの障子をあけると、杉の木や小川を配した豊かな庭が現れる。「自然を映したような庭を」というSさん夫妻の希望が反映された。極限まで細く仕上げられた障子の格子は、伝統技を備えた職人が手かけたもの。上/京都産の木材を贅沢に使った茶室。床板や壁は皮付き赤松、ほかはすべて無垢の杉材。離れの茶室ではなく、「普段の生活とひと続きにして、お茶の世界を子供にも楽しませたい」と、リビングの延長線上に設けている。

